

プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2009年4月30日】

団体名:特別非営利活動法人ナチュラルフェローズ

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

地域の森を知ろう、伝えよう。

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

※応募申請書に記載のもので可。

温暖化対策・ヒートアイランド現象の緩和装置として森は見直されてきているが、森とどう付き合うかについて、自分なりの考えを持たない人が多いことに気づいた。昨年度実施したプログラムに引き続き、「森と人との関わりを考える」ことをテーマに掲げ、参加者に考えてもらい、再び森が生活の一部となることを目的とする。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

場所:明治神宮、狭山丘陵、

スケジュール:第1回6月1日(野外)、第2回7月27日(室内)、第3回10月19日(野外)

野外:10時~10:30 オリエンテーリング、10:30~12:00 プログラム実施、12:00~振り返り、12:30 解散

第1回は、森の魅力を伝えることに関する課題を提示し、各々の視点でコースを進みながら撮影する。

第2回は、現在の自然と人との関わりについての事例を紹介し、森と人との関わり方を考えるワークショップ実施する。

第3回は、森と自分の関わりを伝える課題を提示し、撮影をする。その後、振り返り、まとめを行う。

写真は当法人 HP 内にギャラリーを設置し、発表するとともに、写真集を作成し配布する。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

今回のプロジェクトでは、昨年に引き続きカメラを使って森を撮影しました。2 回目の参加の方、初めての方様々でしたが、森での撮影ではただ写真を撮ればいいのではなく、写真に自分の伝えたいメッセージをこめることが重要であるとのコンセプトを十分伝え、特に視点の取り方、受け手側の印象を思うことを強調しました。特に今年は「人工の森」と「人が維持管理する森」の 2 タイプを経験してもらい、人と森との関係について考えてもらう工夫をしました。その結果、カメラを通して、人のかかわりをじっくりと観察し、そのことが良いのか等の自分の意見を表現し、どう係わるかについて考えることができたとの効果があったと思います。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

今回は3毎の写真を使ってストーリーを表現してもらうことにしました。写真1枚では表現しきれなかったことを各自大いに表現していただいたと思っております。写真集の原稿作りでは各自こだわりを見せ、表現の細部に至るまで変更しに次ぐ変更が行われました。このことはとても良いことだと感じており、自分の思いをしっかりと表現し伝えることの楽しさ、難しさを体験していただけたと思っております。今後は、今回のプロジェクトをきっかけとして参加者のみなさんが継続して、自分なりの森や思いを発信して欲しいと願っております。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

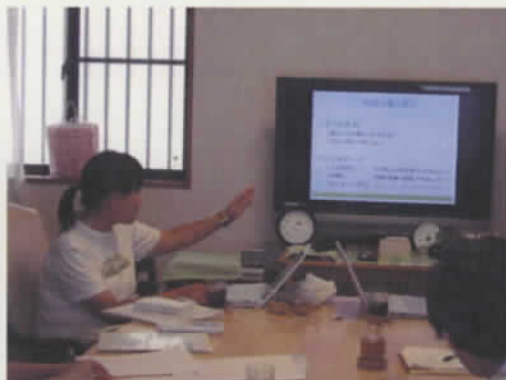
活動状況写真

第1回: 野外撮影

6月1日 (明治神宮)



第2回: 室内ワークショップ 7月27日 (市川市)



第3回: 野外撮影

10月19日 (真如園青梅の杜)

